

大規模な地滑りが豪落を襲い、「能登の大崩落」といわれる国道249号が寸断されていた=3日、石川県珠洲市仁江町、本社機から、相馬郁朗撮影

1/6 朝日



能登地震死者73人に

余震相次ぐ被害規模なお不明

石川県能登地方を震源とする最大震度7を観測した地震で、県などは3日、死者が73人に上ったと発表した。3日も揃い揺れが相次ぎ、生存率が落ち込むとされる「発生後72時間」が迫るなか、消防や自衛隊の職員らが救出にあたっている。

午後7時現在で死者は輪島市39人、珠洲市23人、七尾市6人、穴水、能登両町で各2人、羽咋市、志賀町で各1人。ほか人は3225人で、少なくとも25人が重傷といふ。死者数が最も多かった輪島市の坂口茂市長は3日午前11時時点でも2255件の救援要請があることを明かした。珠洲市でも72件の救援要請に対応できていないという。穴水町は安否がわからない人が6人いるとした。

輪島、珠洲両市の被害規模は明らかになっておらず、両市を除いても180以上の民家が全壊するなどした。3日前の時点で、県内17市町に設けられた計355の避難所に計約3万3千人が身を寄せた。また市町で孤立立棲落が生じている。

岸田文雄首相は3日午前、非常災害対策本部会議を首相官邸で開き、現地に派遣する自衛隊員を1千人から2千人に増員したと明らかにした。倒壊した建物の下敷き

になるなど多数の救助要請があるといい、「人命第一で救命救助に全力を尽くしている」と強調した。県の災害対策本部では、全国から寄せられた支援物資が3日前、県内の自治体に届いたと報告された。ただ、融落・県立病院が生じている。

北陸地方では4日前にかけて低気圧や寒気の影響で強い雨が降るところがある見込み。同庁は、地盤で地盤がゆるみ、少しの雨でも土砂災害が起こる恐れがあるとして注意を呼びかけている。

能登地方では3日も強い揺れが相次いた。午前2時21分に珠洲市で、同10時54分に輪島市でそれ以後4時に観測された震度1以上の地震は52回となり、20年12月~23年12月の約3年間に起きた震度2回(1995年)や熊本地震(2016年)と比べても発災後の余震の多さが目立つといふ。

能登地方では3日も強い揺れが相次いた。午前2時21分に珠洲市で、同10時54分に輪島市でそれ以後4時に観測された震度1以上の地震は52回となり、20年12月~23年12月の約3年間に起きた震度2回(1995年)や熊本地震(2016年)と比べても発災後の余震の多さが目立つといふ。